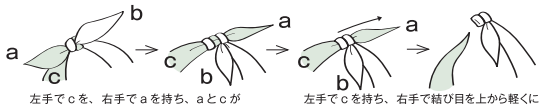
ふろしきの使い方

ふろしきとは・・・ 贈答品を渡す際は、直接手で持って渡すことは失礼にあたり、ふろしきに包んで持参するのが礼儀とされています。包む布としての起源は奈良時代に遡りますが、長い年月の中で変容する生活様式においても、変わらずあり続ける日本の文化です。また生活スタイルに合わせて、自由に形を変えるふろしきを様々な方法で楽しむことができます。

◆基本の結び方・包み方

[真結び]

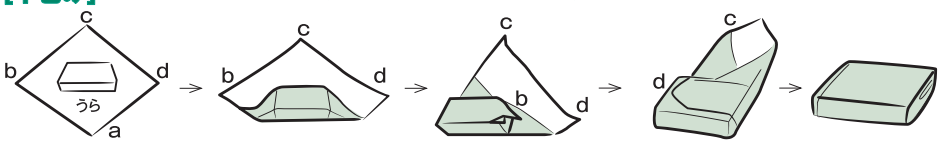
[真結びのほどき方] 固く結ばれている真結びでも簡単に解くことができます。



左手でｃを、右手でａを持ち、ａとｃが一直線になるように左右に引っ張ります。

左手でｃを持ち、右手で結び目を上から軽くにぎり右へ引くと、するっと抜けて解けます。

[平包み] 改まったときの贈り物などによく用いられる最も品の高い包み方です。



ふろしきを裏にして広げ、その中央に箱をおきます。

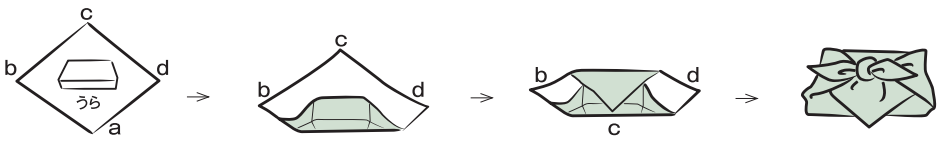
ａをかぶせ、先端を箱の下に折り込みます。

ｂの先端を持ち、箱の角に添わせて上にかぶせます。

ｄも同様に箱をかぶせ、布端がはみ出してしまったら、内側に折り込みます。

ｃを上からかぶせ左右を箱の幅に合わせれば完成。

[お使い包み] 中央に結び目を作った基本的な包み方です。 形がくずれにくく、持ち運びには大変便利です。



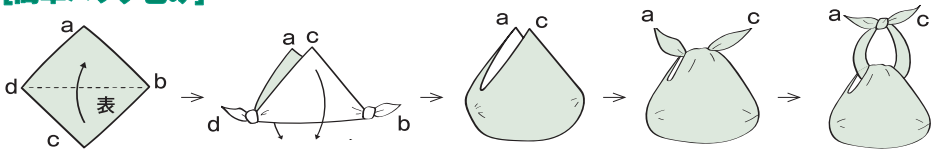
ふろしきを裏にして広げ、その中央に箱をおきます。

ａを上にかぶせ、先端を箱の下に折り込みます。

ｃを上にかぶせ、先端を箱の下に折り込みます。

左右の両端、ｂとｄを箱の上で真結びにして、完成。

[簡単バッグ包み] ちょっとしたアレンジで簡単にバッグとしてもご使用頂けます。 使用後は折り畳んで持ち歩きの邪魔になりません。



ふろしきを表を上にして広げます。

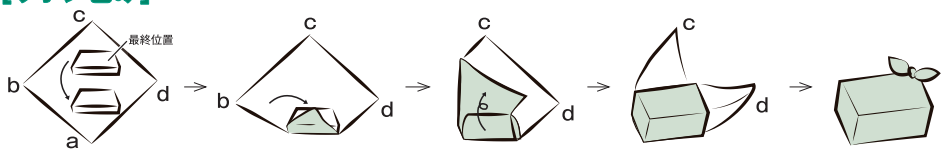
ａとｃを重ね、ｂとｄをそれぞれ一つ結びにします。

表に返すと左右の結び目が内側に入ります。

ａとｃを一回結びます。

ａとｃを先端で小さく真結びにして、完成。

[リボン包み] 四角くてフラットなものにおすすめです。 リボンがアクセントとなりとてもお洒落な仕上がりになります。



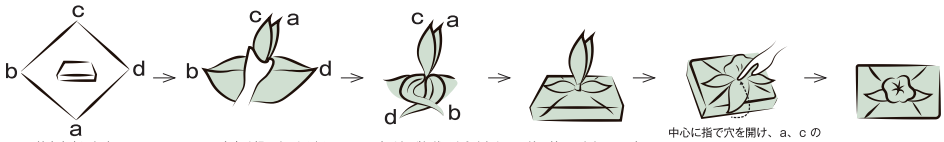
仕上がり時の最終位置を決め、手前にパタンと回転させる。

ａをかぶせる。

ｂをかぶせ、奥へ回転させる。

ｃとｄで真結びをする。

[花包み] 箱の真ん中に一輪の大きな花を咲かせたような仕上がりに。 大切な贈り物にお試し頂きたい包み方です。



箱を中央におく。

ａ、ｃを寄せ根元までしぼる。

ｂ、ｄをそれぞれ後ろからまわし、交差させて前へ持ってくる。

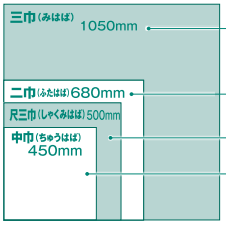
前へ持ってきたｂ、ｄを手前で真結び。

中心に指で穴を開け、ａ、ｃの端から5cm位の部分を片方ずつ穴に差し込む。

花びらのバランスを整え完成。

◆サイズと用途

ふろしきのサイズは巾（はば）という単位で表します。つまり左右の長さです。340mmを一巾（ひとはば）として、倍の680mmは二巾（ふたはば）といいます。用途によってふろしきのサイズも変わります。



ショッピングバッグやテーブルクロスなど、包むだけでなく、ファッションからインテリアまで幅広くご使用頂けます。

訪問の際の菓子折りなどを包むのに適している、ふろしきの定番ともいえるサイズです。

お弁当やランチョンマット、ちょっとしたギフトを包むのに便利な大きさです。

お弁当包みやふくさとしても使えるサイズで、また小物をラッピングするのにも適した大きさです。

アスフィール株式会社　TEL:055-233-1141